

第1章 生涯学習推進計画策定にあたって

1 策定の背景

福津市では、これまで子育て世帯を中心に人口増加が続いてきました。しかし、2034年に人口のピークを迎えた後は緩やかな減少に転じると推計され、地域によっては少子高齢化が課題となっています。

こうした状況の中で、これまで培ってきた地域に根ざした学びを、今後も継続できる形に整え直すことが求められます。また、デジタル化や多文化共生など、社会情勢の変化にも対応していく必要があります。

2 策定の目的

福津市では、「世代を超えて 学ぶふくつの心 ひろがる人の和 学びの輪」を基本理念に掲げ、市民一人ひとりの学びを支えながら、地域とともにある学校づくりや、福津らしい生涯学習の仕組みづくりを進めてきました。

本計画は、こうした理念とこれまでの取組の成果を受け継ぐものです。市民が生涯にわたって学び、その成果を地域の豊かさや暮らしの充実（ウェルビーイング）につなげるための方向性を示し、生涯学習施策を総合的かつ計画的に進めるために策定します。

3 計画の位置付け

本計画は、教育基本法及び国の教育振興基本計画の趣旨を踏まえ、県の関連計画との整合を図りながら、市の教育行政及びまちづくりの方向性と連動して策定します。

上位計画である「福津市教育総合計画」のもと、「福津市教育大綱」や関連分野別計画と連携し、生涯学習社会の実現に向けた施策を総合的に進めます。

4 計画の期間

計画期間は令和9（2027）年度から8年間とします。ただし、社会情勢や地域の状況の変化、制度や法令の改正等を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

5 策定体制

令和8年6月、教育長は、社会教育団体の代表者や公募委員で構成する福津市郷育推進会議に対し、本計画の策定を諮問しました。10名の委員による検討を経て、令和8年10月に答申書が教育長へ提出されました。

本計画は、この答申を踏まえて策定したものです。策定に当たっては、市民意見公募手続（パブリックコメント）を実施し、市民意見の反映に努めました。

第2章 福津市の生涯学習を取り巻く現状

1 福津市の地勢と資源

福津市は、福岡県の北西部、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置します。面積は 52.76 平方キロメートル、人口は約 6 万 9 千人です。東部には山地、西部には海岸を有し、里山や田園、白砂青松の海岸線など、豊かな自然に恵まれています。

市内には宮地嶽神社や新原・奴山古墳群をはじめとする歴史・文化資源があり、多くの人を訪れます。また、農産物や食料品の生産・供給を担う地域として、広域的な役割も果たしています。

2 都市構造と交通

福津市は、JR 鹿児島本線、国道 3 号、国道 495 号に加え、九州自動車道の若宮インターチェンジ及び古賀インターチェンジにも近く、広域交通の利便性に恵まれています。昭和 30 年代以降、福岡市や北九州市への通勤・通学圏として開発が進み、都市機能の集積が進んできました。

一方で、駅周辺の都市的な暮らしと、山や海に囲まれた自然豊かな暮らしが共存していることも本市の特長です。生活の利便性と、地域コミュニティや自然環境とのつながりを両立させる、自然共生都市・集約型都市構造のまちとして発展してきました。

3 市民活動

福津市は、市民参画と共働による自律した地域自治を進めてきました。その中核となる仕組みが「郷づくり（郷づくり推進協議会）」です。「郷づくり」とは、地域住民や地域で活動する団体が互いに協力・連携し、地域課題の解決や、個性と魅力ある地域づくりに取り組む地域自治の活動です。

市内では、おおむね小学校区ごとに郷づくり組織が置かれ、子育て、防犯・防災、福祉、環境景観などの部会を設けて、市民の暮らしをより良くする取組が進められています。地域課題の解決には、その地域に暮らす人々が自ら協力し、地域の実情に応じた方策を考え、実践することが欠かせません。

「郷づくり」では、「学校とまちがひとつになり、未来を担う子どもたちをみんなで育てる」という視点も大切にしています。郷づくり組織が学校とつながって共働することは、コミュニティ・スクールの推進を通じた「まちづくり」「人づくり」にもつながっています。

さらに、福津市未来共創センター「キッカケラボ」では、市民団体、企業、学校など多様な主体が集い、学び合いながら活動を広げるための支援が行われています。新たな市民活動や地域との関わりを生み出す場として機能しており、地域活動を支える土台が広がりつつあります。

4 生涯学習

(1) 生涯学習関連施設

福津市には、複合文化センター（文化会館、図書・歴史資料館）、図書館、中央公民館、体育センター、武道館、勝浦浜海洋スポーツセンターなど、生涯学習に関する施設があります。これらは、市民の学習・文化・スポーツ・交流活動の場として活用されています。

近年は、学ぶ場・活動する場としての機能に加え、人と人とを結びつけ、地域活動や課題解決の起点となる役割も期待されています。そのため、既存施設を有効に活用しつつ、「キッカケラボ」等との連携により、多様な主体が学び、関われる環境づくりを進めます。

(2) 郷育カレッジ

郷育カレッジは、福津市独自の総合学習システムです。「人と人とが心を開き、さまざまに関わり合いながら主体的に育ち合うこと」を通して、地域の人材育成と生涯学習社会の実現を目指しています。「郷育」の「郷」には「地域」「自分たちの住んでいるところ」「ふるさと」の意味を、「育」には地域に育てられ、また地域を育てていく姿を込めています。

郷育カレッジでは、地域で活躍する人々を講師に迎え、地域の特性に着目した講座を開催しています。地域の「ひと・もの・こと」を生かし、コミュニティの絆を深める学習機会を提供しています。あわせて、郷育カレッジの周知を兼ねた「公開講座」、市の各部署が主管する講座を認定し単位を付与する「認定講座」、市職員が地域へ出向く「まちづくり講座出前編」など、多様な取組を進めています。

平成 15 年 10 月の創設以来、地域人材の発掘や学校との連携など、活動の幅は広がってきました。講師が学校のニーズに応じて教育活動を支援したり、講座内容が中学校の探究学習に位置付けられたりするなど、学校や地域に成果が還元される場面も増えています。

今後は、地域に根ざした学びの特色を大切にしながら、デジタル化の進展や多様な学習ニーズにも対応します。より参加しやすい仕組みとして充実を図り、福津市の生涯学習の基盤（プラットフォーム）として、市民と学びをつなぐ結節点となることが期待されています。

(3) 人生 100 年時代における学び

平均寿命の伸長や人生設計の多様化が進む中、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続けることの重要性は高まっています。就労、子育て、介護、地域活動、退職後の生活など、それぞれの段階や状況に応じて、必要なときに学び直しや学びの継続ができる環境が求められます。

また、デジタル技術の進展により、学び方や情報の得方も変化しています。対面による学びを大切にしつつ、オンラインの活用等により、多様な学習機会を確保します。

学びを通じて得た知識や技能を、地域活動やボランティア、生きがいに生かし、一人ひとりの暮らしの充実につなげることが今後の重要な視点となります。

5 学校教育（未定稿）

国は、平成 25 年度以降の教育振興基本計画において、コミュニティ・スクールの全国展開を進めてきました。学校と地域の組織的な連携・協働により、地域学校協働活動推進員の配置や地域学校協働本部の整備など、地域と学校が一体となって子どもを育てる仕組みが広がっています。また、コミュニティ・スクールを進化させ、学校を核とした地域づくり（スクール・コミュニティ）を目指す方向性も示されています。

福津市では、こうした国の動向を踏まえ、平成 20 年度からコミュニティ・スクールの推進を教育施策の柱としてきました。「夢や希望を持ち、健やかに育つ子ども」の育成に向け、郷育カレッジや郷づくり推進協議会と連携・共働しながら、教育活動の充実を図ってきました。子どもたちは、多様な大人との出会いの中で、基礎的・基本的な学力に加え、社会人としての基礎力や生きる力を育んでいます。

学校、家庭、地域の三者が共働して子どもを育てることは、地域の人々にとっても、新たな出合いやつながり、居場所や活躍の機会を生んでいます。平成 27 年度から 29 年度までを充実期と位置付け、中学校ブロックにおける 9 年間の子どもの育ちを見据えた小中連携教育を進めました。あわせて、三者が熟議し目標を定め、当事者意識をもって取り組み、評価・改善につなげる「地域とともにある学校づくり」を進めてきました。

第3章 福津市の生涯学習における課題

1 現状

第2章で述べたとおり、福津市には郷育カレッジ、郷づくり活動、コミュニティ・スクール、キッカケラボなど、地域に根ざした学びや活動を支える仕組みがあります。これらは市民の学びとつながりを支える、福津市の特色ある取組です。

一方で、人口増加や転入者の増加、担い手の高齢化、デジタル化の進展などにより、地域や人の結びつきが弱まり、必要な情報が届きにくい状況も見られます。既存の取組を生かしつつ、相互の連携を深め、学びや活動に参加しやすい環境を整えることが求められます。

2 自然共生都市・集約型都市構造のまちとしての課題

(1) 山、海、川などの自然や、歴史・文化資源は福津市の大きな財産です。しかし、環境の変化や開発の進行により、その現状や価値を学びに十分生かせていない面があります。学びや地域活動を通じて、地域資源への理解と保全の視点を一層重視することが求められます。

(2) 人口増加や都市化に伴い、交通安全や生活環境など、地域の課題も変化しています。こうした変化に対応しながら、自然・観光・歴史文化の資源を学びや地域づくりに生かし、その魅力を市内外へ分かりやすく発信することが必要です。

3 市民活動における課題

(1) 郷づくりをはじめとする地域活動では、担い手の高齢化や固定化が進み、活動継続のための人材確保が課題です。子ども会育成会連絡協議会、学校、地域団体などとの連携を進め、若い世代を含めた新たな担い手の参加につなげます。

(2) 活動したい市民や地域に関わりたい人がいても、参加のきっかけや相談先、活動情報が分かりにくい状況があります。活動と人とを結びつける仕組みを整え、参加しやすい環境を整備します。

4 生涯学習の仕組みにおける課題

(1) 郷育カレッジは福津市独自の学びの仕組みですが、若い世代や働く世代を含めた市民全体への浸透は十分ではありません。学習機会や活動団体、相談先の情報も届きにくい状況があります。学びの情報を分かりやすく整理し、学校、図書館、郷づくりの拠点、キッカケラボなどと連携しながら周知を進めます。

(2) 学びを深めた成果を、地域活動やボランティア、学校支援などに生かす仕組みはなお十分ではありません。地域講師や学校支援ボランティアなど、地域人材の育成と活用を進め、学びを地域に還元する流れを強めます。

(3) 人生 100 年時代を迎え、就労、子育て、介護、退職後の生活など、それぞれの状況に応じた学びが求められています。デジタル化の進展に対応し、学び直しや情報活用能力の向上を支える環境も欠かせません。多様な世代や立場の市民が学び続けられる仕組みを整えます。

(4) 中央公民館をはじめとする生涯学習の拠点は、学ぶ場としての機能に加え、人や活動を結びつける場としての役割も求められています。市民が立ち寄りやすく、利用しやすい拠点となるよう、機能や周知の在り方を見直します。

5 学校教育における課題

(1) 市内の人口増加に伴い、小中学校では児童生徒数の増加に対応した教育環境の整備が課題となっています。教室不足など施設面への対応を進めつつ、教育活動の充実を図ります。

(2) コミュニティ・スクールをさらに進めるためには、転入者を含む保護者や地域住民への理解を広げる必要があります。また、学校によって地域との連携状況に差があるため、郷づくり、PTA、行政などの関係者間で情報共有を図り、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの学びを支える体制を充実させます。